

防災かわら版

問合せ先 防災安全課消防安全係（河内庁舎2階） ☎ 36 4 1 4 5

9月は防災月間です

1923年9月1日に発生した関東大震災を教訓として、毎年9月1日を「防災の日」に制定しています。また、9月は風水害も多くなるため、防災月間として定め、災害に対する備えなどの意識向上を図っています。この機会に各家庭でも防災対策に取り組んでみましょう。

家庭で取り組む防災対策

災害時にスムーズな避難を行うためには、日ごろからの準備・確認が重要になります。今回は家庭で取り組むことができる防災対策についてご紹介します。

○避難ルートの確認



防災安全課で配布している『わたしの避難計画』などを活用して避難ルートの確認をしてみましょう。自宅周辺の災害リスクや避難場所の確認をしておくことが迅速な避難につながります。

避難ルートが確認できたら、実際に歩いて避難にかかる時間の計測や危険な箇所の確認を行ってみましょう。自分の目で確認することで災害時の避難をイメージできます。

○非常用持出品と備蓄食料の準備



避難するときに持ち出す非常用持出品には、ラジオ、懐中電灯、非常食など日常的に使うものを用意しておきましょう。また、非常時に数日間生活できる食料や水の備蓄も忘れずに行いましょう（持ち出せる形で3日分、家庭での備蓄は7日分を目安に用意しておきましょう）。

備蓄の際は、賞味期限が切れる前に消費し買い足すローリングストックを行うことで備蓄品の鮮度を保つことができます。

○安全スペースの確保



大規模地震が発生した際には自分の身を守るとともに、避難経路の確保が重要になります。そのうえで家具の固定は欠かせません。防災安全課では、**家具固定器具の購入費に対して補助金**を交付しているため、必要に応じて活用ください。

また、室内になるべくものを置かない「安全スペース」（ものが落ちてこない・倒れてこない・移動しない空間）を作っておくのもよいでしょう。

ご紹介した対策以外でも家庭で取り組めることから始めてみましょう。また、**わたしの避難計画**や**防災関連の補助制度**については防災安全課が担当していますので、ぜひご活用ください。

【同報無線による放送を聞き逃した皆さまへ】

同報無線放送後24時間以内であれば、放送内容を自動音声により確認できます（ご利用には通話料金がかかります）。
電話番号 ☎ 3866

下田開港170周年記念事業

開国のカケラを集めて

下田開港の諸相

下田の幕末コレラ騒動

令和の日本で新型コロナウイルスの感染が流行しているように、幕末の日本では、コレラという感染症が流行していました。下田でも感染者の拡大に対して様々な対策を取りましたが、行動制限や薬の配布のほかに、疫病退散を目的とした加持祈禱や、祭事を使う金幣などの神具を町内に回した記録も残っています。

さらに、コレラの原因がキツネだとする説から、山中で空砲を打ち鳴らしたり、天敵のオオカミを祀る秩父三峯神社から御札を借りてくるなど、対応は多岐にわたります。

港町で人の往来が激しかった下田では、感染症のリスクも高かったことかと思えますが、予防や治療の情報が少ない中でも、人々はその手この手で感染を収束させようと尽力したことが分かります。

遊歩権と幻の反射炉計画

幕末に開港した下田では、日米和親条約の規定により、港内の犬走島から七里（約28km）圏内を米国人が自由に歩き回れる「外国人遊歩権」が初めて認められました。当時、日本を訪れた外国人の多くは、事前に日本についてある程度の下調べをしていましたが、それでも、長く鎖国下にあった島国で見聞するものは何もかもが新鮮でした。彼らを感じた驚きや発見は、現在も報告書や日記、絵などから見るることができます。

またこの時、現在の高馬付近では、大砲鑄造等のために反射炉が造られていましたが、外国人の出入りが頻繁であることから、急遽中止となってしまうことになりました。その後、建設場所を移して完成したのが、現在、世界遺産としても知られる葦山反射炉なのです。

文化と文化が出会うとき

海運が主要な物流経路であった江戸時代、港町である下田では江戸や上方の文化がいち早く流入したと言われています。同じように、今度は開国によって外国船が碇泊し、一時的にはありますが、下田は海外の文化を受容する窓口となり、早い段階から外国人との交流も見られました。そして、異なる文化に出会うというのは、時に衝突を伴うこともありますが、下田が開港地としての役目を果たすことができたのは、古くから海を通じて外部に開かれてきた歴史があったというの大きな要因ではないでしょうか。



下田八幡神社前（画：ハイネ）
『バリ一艦隊遠征記』所載

問合せ先
企画課政策推進係
（河内庁舎2階） ☎ 22212

下田開港170周年記念

下田市街散策「松陰ウォーク」

吉田松陰の歴史と功績を振り返り、市街地の旧跡を辿るウォーキング大会を開催します。

開催日 9月29日（日）9時15分～15時予定

集合 道の駅開国下田みなと2階ウッドデッキ

参加費 一般500円

※宝福寺の入館料は自己負担（400円）

コース 道の駅をスタートし、弁天島やハリスの小径ペリーロード等を通り、市街地を中心とした16か所程の吉田松陰・下田開港ゆかりの地を巡る約10kmのコースです。

主催・問合せ先 伊豆歩俱樂部事務局

☎ 25465 / 090-2140-1717



下田開港170周年記念日露歴史パネル展

「プチャーチン提督と下田～交流の記録～」

日露和親条約の締結のため下田港を訪れたプチャーチン提督の歴史と功績を振り返り、守り受け継いでいく国際交流の思いを新たにすため、プチャーチン提督の歴史資料パネル展、モジャイスキー画（複写）パネル展、映画上映「幕末のスパシーボ」（館内上映）を開催します。

期間 9月20日（金）～29日（日）

9時～17時

場所 道の駅開国下田みなと 2階特別展示室

入場料 無料

問合せ先 企画課政策推進係（河内庁舎2階）

☎ 22212